粟田口霑笛竹（澤紫ゆかりの咲分）

序

弄月庵主人

青空文庫

今を去る三十年の昔、三題噺という事一時の流行物となりしかば、当時圓朝子が或る宴席に於て、國綱の刀、一節切、船人という三題を、例の当意即妙にて一座の喝采を博したるが本話の元素たり。其の時聴衆咸言って謂えらく、斯ばかりの佳作を一節切の噺し捨に為さんは惜むべき事ならずや、宜敷く足らざるを補いなば、適れ席上の呼び物となるべしとの勧めに基き、尚金森に充分の枝葉を茂らせ、國綱に一層の研を掛け、一節切に露取をさえ添え、是に加うるに俳優澤村曙山が逸事を以てし、題して花菖蒲沢の紫と号せしに、この紫や朱より先の世の評判を奪い、三十年後の今日迄依然として其の色を変ぜざるのみか、一度やまと新聞に写し植字たるに、這も復時期に粟田口鋭き作意と笛竹の響き渡り、恰も船人の山に登るべき高評なりしを、書房は透さずこの船人の脇艫を押す事を許されたりとて、自己をして水先見よと乞うて止まねば、久しく採らぬ水茎の禿たる掉を徐ら採り、ソラ当りますとの一言を新版発兌の船唄に換えて序とす。

弄月庵主人記

青空文庫情報

底本：「圓朝全集　巻の三」近代文芸資料複刻叢書、世界文庫
　　1963（昭和38）年8月10日発行
底本の親本：「圓朝全集　巻の三」春陽堂
　　1927（昭和2）年1月28日発行
※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記をあらためました。
また、総ルビの底本から、振り仮名の一部を省きました。
底本中の「其」は、「其の」としました。
入力：小林繁雄
校正：門田裕志、仙酔ゑびす
2010年10月16日作成
2011年2月13日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

粟田口霑笛竹（澤紫ゆかりの咲分）

序

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　弄月庵主人
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/